

はじめに

鎌倉市では、年度ごとに図書館で実施した事業を、この「鎌倉市の図書館」という形でまとめています。平成 26 年度の「鎌倉市の図書館」ができましたので、ご高覧ください。

昨年の 10 月にビッグニュースが飛び込んできました。医学生理学賞と物理学賞で、2 人の日本人がノーベル賞を受賞しました。日本人として誇らしく思うとともに、是非、将来は鎌倉市の図書館を利用させていただいている方の中からノーベル賞を受賞する方が出ていただければと思います。

さて、今年度は鎌倉市の図書館として大きな出来事がありました。8 月 26 日付で、「自殺をして欲しくない。図書館は居場所となりうる。」という主旨のツイートを図書館の公式ツイッターから発信しました。10 万件を超えるリツイート数で、大きな反響があったところです。改めて、図書館が子どもや大人にとって居場所となりうるということが認識されたのではないかと思います。図書館としては、見守っていくしかないのですが、学校を含め、教育委員会の組織全体で、いじめ、不登校などの問題解決を図り、子どもたちのいのちが守られるようそれぞれの役割をいかしながら連携して取り組んでいきたいと思っています。

いま、図書館のあり方が問われています。図書館の運営に関しても、自治体が直接運営するものから、指定管理者に運営を任せるところや、業務の一部を委託する図書館など、様々な運営方法がとられています。あり方に関しても、本を貸す、見るという場所から人々が交流する場所へと考え方が変わりつつあります。ただし、本を収集し、整理・保存をしていくという基本的な役割は変わらないと思います。どのような本を収集していくのかは、その図書館によって異なります。鎌倉の場合は、鎌倉に関する本を収集していくという大切な役目があります。収集し、保存し、後世に継承していくことで鎌倉市の図書館の蔵書が構築されていきます。そのような基本的な役割を忘れないようにしたいものです。

この「鎌倉市の図書館」が、図書館活動を評価し、図書館をより使いこなしていただくための資料として多くの方にご活用いただければ幸いです。そして、多くのご意見・ご要望を図書館にお寄せいただければと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。